

第1節 人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち

3 多文化共生社会

～行政レベル、市民レベルともに世界に開かれたまち

<A 基本計画の目標>

国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを進めます。
市民・市民団体の国際交流・協力活動を支援します。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	35.4 %	61.8 %	53.2 %	62.6 %	59.5 %	↓

<C 目標達成に向けた25年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【経営企画部】	自己評価
市内を中心に国際交流・国際協力活動を行っている市民団体と「国際交流フェスティバル」を開催し、市及び団体相互の情報交換を行い連携を強化するほか、各団体の活動状況の周知を図りました。 また、市内在住又は在学の中高生を対象とした国際理解講座では、世界の言語や人を身近に感じてもらえるよう体験型の講座を設けるとともに、市民等を対象とした国際交流講座では料理教室及び講師講話を通して、イタリアについて理解を深める機会を設けました。	○
外国籍市民の意思疎通の支援を目的とした通訳ボランティアの派遣については、学校訪問及び市事業への派遣を行い、国際交流活動等を支援しました。 平成25年度市民通訳ボランティア登録者数は平成24年度と同数であり、当該事業について、より広く周知を図る方策を検討していきます。	○
県主催で隔年開催しているカナガワビエンナーレ国際児童画展を開催し、各国の子どもたちが描いた絵画を通じて、お互いの生活や文化について理解を深める機会を設けました。	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 8年間(平成18～25年度まで)の取組の評価>

【経営企画部】
国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくり及び市民・市民団体の国際交流・協力活動の支援に努め、国際交流フェスティバルの開催や市民向けの国際理解講座の開催、HPでの情報提供等を行いました。

<E 25年度までの未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】
国際交流・協力団体相互のネットワークの強化やさらなる国際交流・協力活動の促進を目的とした「活動拠点の整備」が、情報交換の場の設定・調整等が十分でなく未解決となっています。

<F この分野の取組が含まれる第3期基本計画の施策の方針>

【経営企画部】

分野名	施策の方針名
多文化共生社会	多文化共生社会の推進

<G F欄の施策の方針における今後の展開(取組方針)>

【経営企画部】

施策の方針名	
多文化共生社会の推進	国際交流・協力活動のさらなる推進を図るため、「国際交流フェスティバル」を通して、市及び国際交流・協力団体との協力関係を維持するとともに、団体相互のネットワークの強化を図ります。 国際理解講座や通訳ボランティアの有効活用等の支援施策の充実により市民及び外国籍市民の相互理解をはかるとともに、外国籍市民へのアンケートなどを基に外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを推進していきます。

<H 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	H22年度 目標値	H27年度 目標値
通訳ボランティアの派遣回数(+)	外国語通訳ボランティアの年間派遣回数	4 件	2 件	0 件	1 件	2 件	5 件	6 件
通訳ボランティアの登録者数(+)	外国語通訳ボランティアの登録者数の合計	138 人	117 人	126 人	126 人	126 人	140 人	143 人
多文化共生社会の浸透率(+)	日常的に外国人との交流がある市民の割合	20.1 %	18.2 %	19.6 %	21.2 %	20.4 %	22.1 %	24.1 %

<I 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	3,366千円	2,235千円	773千円	1,361千円	535千円	351千円		
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円		
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円		
	(一般財源)	3,366千円	2,235千円	773千円	1,361千円	535千円	351千円		
	人員配置数	1.0人	1.2人	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人		
	人件費 (B)	9,626千円	11,511千円	8,816千円	8,760千円	8,114千円	7,812千円		
	総事業費 (A+B)	12,992千円	13,746千円	9,589千円	10,121千円	8,649千円	8,163千円		
	対前年比		105.8%	69.8%	105.5%	85.5%	94.4%		

鎌倉市民評価委員会の評価

◎ この分野の8年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見

- ・外国籍市民の意識調査を国際協力団体の協力により意見聴取を行ったことなどは評価できるが、その内容は極めて乏しく、市内在住の外国人のニーズが把握されたとはいえない。
- ・国際交流フェスティバルの開催、国際理解講座、国際交流講座の開講等、身近なところから外国人との触れ合いの場、語らいの場を設け業績を挙げた。通訳ボランティアの募集と派遣といった活動を中心に努力されていたと判断する。
- ・外国籍市民は、もっと地域に密着した情報交換の場が欲しいとの意見もある。

きわめて優れていた：◎
十分であった：○
不十分であった：△

○

◎ 第3期基本計画に向けたこの分野に関する意見

- ・「世界に開かれたまちをめざす」(第3期基本計画)とは、多文化共生社会の上に成り立つ。
- ・外国人を支援する団体や、グループとの対話を充実させ、外国人のニーズを極力把握したうえで施策を進めてほしい。
- ・国際化の実態を常に把握すべきである。外国人のSNS活用による情報収集など、鎌倉市からの情報の外国語変換などへの迅速な対応の方が必要となってくることが予想される。
- ・国際理解などのイベントも重要であるが、教育の分野でこれからの子どもたちへの国際理解をさらに推進して欲しい。
- ・日本人、外国人が相互に何を求めているのかを把握し、市民主体で双方にメリットがある企画を立案できるような仕組みの構築に取り組むべきである。
- ・災害時の避難場所や情報伝達などの問題点を地域コミュニティと一緒に検討する必要がある。
- ・世界遺産登録推薦を今後とも目指すならば、多文化共生社会を実現する中で、イコモス勧告にある「顕著な普遍的価値を有するとはどういうものか」という内容を修得できればと願っている。

◎ この分野の指標に関する意見

- ・満足度の実績が平成21年度に急伸している。世界に開かれたまちという意識は高めることができたと思う。世界遺産へのチャレンジも大きかったのかもかもしれない。満足度と外国人との交流の割合の相関性は低い。
- ・満足度と通訳派遣回数、通訳登録者数ともに相関性は成立しない。外国語通訳ボランティアの年間派遣回数は、8年間にわたり低調でほとんど意味がなく、今後の指標に入れるべきではない。
- ・参加者や登録者の満足度ならまだしも、参加数や登録数は指標とはなり得ない。日本人、外国人の相互のニーズを明確にし、お互いに望んでいる共生とはどのようなものであるかを明確にしてから指標を設定すべきである。
- ・日常的に外国人と接する機会のある人は2割であり、地域における支え合いがどれだけ進んでいるのかを把握していく必要がある。

◎ この分野に関する総括意見

- ・日本語に不自由ない外国籍市民とそうでない市民との実態を把握して、必要なサービスを提供して欲しい。
- ・通訳ボランティアは、派遣の実績はなく問い合わせ2件のみ。通訳ボランティア事業の意義と内容の見直しを図るべきである。
- ・今後も世界に向けてどのように鎌倉市を市民と共に歩むかが大きな課題である。
- ・国籍や文化の違いを認め合うことは、多文化共生社会に欠かせないが、同時に外国人から尊敬される国民を目指し、且つ我国の良さ(平和を愛する国民、安心・安全な国、親切、勤勉、四季の豊かさ等々)をしっかりと外国人に理解してもらうことも大切である。
- ・人権等の多分野との関係性も強いことから、他の分野との連携が重要となる。また男女共同参画同様、外国人にも様々な分野に係わって頂けるような取組も必要である。
- ・鎌倉市に在住する外国人の姿が全く見えてこない中で、施策を検討すること自体無理がある。是非、きちんとした実態を把握して頂きたい。